



広島大学

広島大学大学院理学研究科  
生物科学専攻

# 第11回 細胞生物学研究室セミナー

「細胞のかたちと機能」プロジェクト研究センター共催

2018年10月12日（金）16:30～17:30

理学部 E 棟 002号室

## 杉本 亜砂子 博士

東北大学大学院生命科学研究所

発生ダイナミクス分野

## 発生過程の可塑性と進化 ～線虫をモデル系として～

動物の進化過程において、ゲノム配列の変化は細胞動態に影響をおよぼし、その蓄積の結果として組織・個体レベルでの形態変化が生じる。一方で、組織や個体の形態は維持したままで、その形成を制御する遺伝子経路が変化し得ることも知られている ("Developmental Systems Drift": DSD)。私たちはこれらのプロセスの理解を深めるために、モデル系として広く用いられてきた線虫 *Caenorhabditis elegans* と、その近縁種 (*Caenorhabditis inopinata*, *Pristionchus pacificus*) を用いた解析をすすめている。本セミナーでは、細胞極性確立機構の多様性と進化についての最近の知見を紹介するとともに、近縁種を用いた進化生物学研究の今後の展望について議論したい。

参考文献：

Kanzaki N, et al., *Nat Commun.* 9:3216 (2018)

Namai S, Sugimoto A., *Dev Genes Evol.* 228:75-82 (2018)

学部学生・大学院生・教員、参加自由です。

皆さまのご来場をお待ちしております。

連絡先：理学研究科生物科学専攻・細胞生物学研究室

千原崇裕（内線：7443） [tchihara@hiroshima-u.ac.jp](mailto:tchihara@hiroshima-u.ac.jp)